

編集長のことば

編集人 中村千久

「万象」誌の第4代となる編集長をお引き受けすることになりました。横井博之、内海良太、江見悦子という「風」で修練を積んだ大先達の後継を名乗るのはおこがましい限りですが、「万象」の名を汚さぬように努力してまいります。



江見新主宰は就任に当たって「温故知新」を合言葉として掲げました。沢木欣一、細見綾子両先生が育み遺された「即物具象に基づく俳句」の基本に立ち返りつつ、新しい時代の風をいっぱいにはらんだ新鮮味のある俳句実作を目指そうとのメッセージです。

それは俳句の基本を大切にするための求心力と、そこからさらにこれまでになかった俳句へと展開するための遠心力の融合ということであろうかと理解しています。

コロナ禍の中で、これまで長い間親しんできたものが思いどおりにならない時代に投げ出されたことは痛恨事ですが、このことを奇貨として、さまざまな変革を試みる絶好の機会であると受け止めたいと思います。

新しい革袋を新しい美酒で満たしたいという思いで取り組んでまいります。前主宰の内海良太が常に口にした「気宇壮大に！」を胸に刻み、「万象」誌が会員全員にとってのかけがえのない句座となることを願っております。